図書館だより

武雄高校　図書指導部
令和６年９月17日発行
第　９　号

今回の図書館だよりは1年1組図書委員 藤本鉄大と樋口心温が作成しました。

✿おすすめの本　Select✿

●どれも図書館にあるので、手に取ってみてください。

『かがみの孤城』 辻村深月【著】(ポプラ社)

おすすめの理由

この本は、７ 人の人物を中心に展開していく物語です。物語の中に、たくさんの伏線がちりばめられていて、思わず一気読みをしてしまうそんな物語となっています。なので、読むときには時間がたくさんある休日などをおすすめします!!!!

『ストロベリームーン』 芥川なお【著】(すばる舎)

あらすじ

高校一年生の佐藤日向と桜井萌は高校の入学式に出会い、３時間で付き合うことになった。
そんな二人は、見ると永遠に結ばれると言われているストロベリームーンを見に行くが…。

『人間』　又吉直樹【著】（毎日新聞出版）

おすすめの理由

この本は、人間の持つどうしようもない愚かさを、リアルかつ痛烈に描写されています。しかし、それを否定することなく、人はそれらを抱えながら生きていくことを肯定してくれる優しい一冊になっています。

『変な絵』 雨穴【著】（飛鳥社）

おすすめの理由

この本は、様々な絵が出てきて最後にはすべてがつながる怖い物語です。非常に生々しい表現が使われていますが、読み応えのある素晴らしい作品です！話の全貌がわかってくる頃にはとてもゾッとします！まだまだ暑い日が続くので背筋を冷やしてみませんか？

✿ 国スポ近し！　【高校野球編】✿

皆さんは野球は好きですか？私は大好きです。私のおすすめの国スポ高校硬式野球について紹介します。10月3日から10月9日まで行われる今大会は、夏の甲子園大会佐賀県代表の有田工業高校とトップ7のチームが参加します。今大会の有工の下克上に期待しており、優勝予想はずばり有田工業高校です！

高校野球やプロ野球に関する本もたくさんありますよね。そうした本を読んでから観戦すると、野球の奥深さを感じられるはずです。

大谷選手がんばれ！（国スポとは関係ありませんが 50-50 に期待）

新着図書案内

☆☆　上半期学年別貸出状況　☆☆

　新学期が始まり、半年が過ぎた時点でのクラス貸出冊数は以下のとおりです。
今年度の上半期貸出冊数は、1年生…1,548冊　2年生…662冊　3年生…520冊
合計 2,730 冊。
昨年度の同期間貸出冊数は、1年生…　819冊　2年生・・・312冊　3年生…244冊
合計 1，375 冊。
　昨年度に対し、全体的にどの学年も増加しています。今年度は図書館終礼を行っているので皆さんが図書館にくる回数が増えているからだと思います。
　本を読むことは大学受験ではもちろん、社会の基礎知識として大いに役立ちます。小論文を書くにも「自分を表現する言葉」、「自分の意見を述べるための表現力」が必要です。そういった力をつけるために、柔軟な発想を身につけ、自分の進路実現に向け、たくさんの本を読みましょう。

『神山～地域再生の教科書』	篠原　匡【著】
『凡人のための地域再生入門』	木下　斉【著】
『銀河の片隅で化学夜話』	全　卓樹【著】
『数学する身体』	森田真生【著】
『明智恭介の奔走』	今村昌弘【著】
『死んだ山田と教室』	金子礼介【著】
『あいにくあんたのためじゃない』	柚木麻子【著】
『われは熊楠』	岩井圭也【著】
『精選女性随筆集　白洲正子』	白洲正子【著】
『力尽きレシピ』	犬飼つな【著】
『満月珈琲店の星詠み』	望月麻衣【著】
『争わない社会「開かれた依存関係」をつくる』	佐藤　仁【著】
『心　日本の内面生活がこだまする暗示的諸編』	小泉八雲【著】
『夕暮れに夜明けの歌を一文字を探しにロシアに行く』	奈倉有里【著】
『だからフェイクにだまされる一進化心理学から読み解く』	石川幹人【著】

『プラチナハーケン1980』 海堂尊【著】（講談社）

　昭和の終わりの足音が聞こえる中、東城大学医学部総合外科の佐伯教授は、若きヒラ医局員・渡海征司郎を大抜擢した。彼は周囲の医局員の反感を買いながらも次々に高度な手術を成功させる。やがてオランダでの国際学会に教授の名代として送り出された渡海は、その地で新たな因縁と巡り会う。そして帰国後、ある患者のカルテに不審を抱いた彼は、佐伯外科の深い闇へ足を踏み入れていく…。

『難問の多い料理店』 結城真一郎【著】　（集英社）

　ビーバーイーツの配達員として日銭を稼ぐ大学生の僕は、注文を受けて向かった怪しげなレストランで、オーナーシェフと出会う。彼は虚空のような暗い瞳で、「お願いがあるんだけど。報酬は 1 万円。」と、嘘みたいな儲け話を提案し、あろうことかそれに乗ってしまった。そして気づいた。どうやらこの店は「ある手法」で探偵業も担っているらしいと。空室に届き続ける置き配、火災現場に突入した謎の人物、なぜか指のない轢死体…。オーナーはどんな難問も華麗に解いてしまう。そして、配達員にこう伝えるのだ。―「もし口外したら、命はない。」

『六月のぶりぶりぎっちょう』 万城目学【著】　（文藝春秋）

　京都の軌跡、ふたたび。奇妙、珍妙、でも感動！マキメ・ワールド最高潮!!〈その死体は信長〉―密室殺人事件に巻き込まれた私は、うっかり本能寺の変の謎に挑んでしまう…。〈洛中女子寮ライフ〉ー14回生以上との噂のある、女子寮の“お局様”の正体は!?京都の摩訶不思議を詰め込んだ「静」と「動」の2篇。

『地雷グリコ』 青崎有吾【著】（角川書店）

　射守矢真兎（いもりや・まと）。女子高生。勝負事に、やたらと強い。平穏を望む彼女が日常の中で巻き込まれる風変わりなゲームの数々。罠の位置を読み合いながら階段を上ったり（「地雷グリコ」）、百人一首の絵札を用いた神経衰弱に挑んだり（「坊主衰弱」）。次々と強者を打ち破る真兎の、勝負の先に待ち受けるものとはーミステリー界の旗手が仕掛ける本格頭脳バトル小説、全5篇。